



つかんだ栄冠 「金賞」 14年ぶりの



1 三年生にとっては最後のコンクール。出来ることすべてをやり、結果発表を待つ。2 金賞受賞の瞬間、我を忘れて喜ぶ部員たち。3 「金賞おめでとう」のくす玉を割る坂本部長と中島副部长。このくす玉は、以前の卒業生が金賞受賞したのために作製したもの。4 学校に戻ってから三年生の仮引退式が行われた。三年生一人ひとりが、部員に対して感謝と来年への激励の言葉を告げる。



実った努力の成果 「桂川中学校、ゴールド金賞」

いよいよ大ホールでの表彰式。坂本部長は舞台上で、他の部員たちは観客席で発表の瞬間を待つ。

表彰式では、一校一校、学校名が呼ばれ「(ゴールド)金賞」「銀賞」「銅賞」のいずれかが発表される。桂川中学校の発表は21番目。次々と他の学校の発表が行われる中、「〇〇中学校、ゴールド金賞」というアナウンスのたびに観客席のどこから歓声上がる。

もちろん銀賞や銅賞と評価される学校も多く、部員たちは自分たちの発表が近づくにつれ、期待と不安の入り混じった複雑な表情を見せる。

そして、ついに発表。坂本部長が表彰の舞台へと歩みを進め、部員たちの緊張感が高まる。

14年連続の銀賞か、14年ぶりの金賞か。部員たちは頭を伏せ、願う。

「桂川町立桂川中学校」
「ゴールド金賞」

アナウンスされた瞬間、部員たちは歓声を挙げ、抱き合い、涙を流し、喜びを分かち合った。暑い中汗をぬぐい練習に励んで作り上げた「桂中吹奏楽部の演奏」。その努力の成果が最高の形で実ったのだ。

終りを告げる熱い夏

金賞の発表に続き、筑豊支部代表校の発表。選ばれるのは4校。

これに選ばれると、1カ月後の県大会へ駒を進めることができるのはもちろん、このメンバーでもう1カ月吹奏楽を続けることができる。彼らは再び、発表の瞬間を待った。しかし――
アナウンスされる4校の中に、桂川中学校の名前はなかった。

大きなため息の後にあふれ出た涙とともに、彼らの熱い夏は、終わった。

*

最終的に、今年のコンクール参加26校中、金賞を受賞したのは9校。多くの金賞受賞校が30人以上で演奏を行う中、桂中吹奏楽部の演奏人数はわずか18人。参加全校の中でも最少人数だ。審査員からの講評も、「少人数である演奏ができたことは驚き」という評価で占められた。

この人数での金賞獲得を「快挙」と話す藤井先生。コンクール後、部員たちを前に改めて感謝の想いを伝えた。「ありがとう。本当に感謝しかない。ミスもあったけど、それでも金賞を取れた。それだけみんなの気持ちが一つになって伝わったということ。その気持ちを、これからも忘れないでほしい」